

ソニー教育財団主催の2017年度「幼児教育支援プログラム」の論文に応募いたしました。

当園の研究テーマとして、

**「ひとみキラキラ こころワクワク みんな大好きお友達と先生」
ーコンシェルジュ保育 for 「みつける」 and 「みつけるための援助」ー**

A4版20ページの実践事例を含めた論文を9月7日付でソニー教育財団に送付し、審査を受けます。審査結果は本年12月中旬に発表される予定です。

昨年度は全国の幼稚園と認定こども園、保育所から109の論文（2016年度結果：最優秀園2園、最優秀特別園1園、優秀園12園、奨励園52園）が集まり、審査を受けました。全国レベルではこれまで短期大学附属幼稚園からの応募はありましたが、千葉県においては当園が初となりました。

当園では応募規定にある「**科学する心**」を子どもたちが本来保有している感性が適切に刺激されることにより、幅広く、多様な事象に対して、興味・関心を持ち、人と関わりながら自ら行動を起こして知的好奇心を楽しもうと挑戦する心と定義して論文を構成しました。

また、本年度からスタートさせました5歳児とその保護者や卒園児を含む家族を対象に、年10回、40を超える科学プログラムから構成された「かがくのひみつきち」について、園長夫妻を指導者として全国にも例のない夫婦で行う科学教室を本園の特色ある実践として記述しております。

更に子どもの心の動きの変化を適切にとらえ、教育的意図を持った援助を行う保育活動の手法を私たちは「**コンシェルジュ保育**」と呼ぶことにする。一般的な「コンシェルジュ」は案内や紹介人であるが、究極のパーソナルサービスとしてこれを子ども一人一人に応じたきめ細かいサービスを行う機能ととらえ、これを私たちが目指す保育を行う「**幸せ配達人**」としての姿であるとして記述いたしております。コンシェルジュ保育はまだ走り始めたばかりでまだ地に足がついたものではありませんが、この方向を目指して日々の保育を進めております。

本年度が初の応募となる当園では、次年度の計画をしっかりと記述し、すでに次年度の応募を見据えて計画の実践を開始しております。

参考：ソニー教育財団

<http://www.sony-ef.or.jp/>